

| | |
|------------------|---|
| Title | 佐野善作著 取引所投機取引論 上巻 |
| Sub Title | |
| Author | |
| Publisher | 三田学会 |
| Publication year | 1913 |
| Jtitle | 三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.7, No.3 (1913. 7) ,p.619(201)- 620(204) |
| JaLC DOI | |
| Abstract | |
| Notes | 批評と紹介 |
| Genre | Article |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19130710-0203 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

時事問題に關する論説を寄稿せられしが、此等は皆過去二年間に於ける政府の財政々策の眞髓と其適否とを知るに最も有用なる文字なりとす。堀江博士が我國に於ける有数の財政學者なるは茲に贅するの必要なのみならず、博士が我國の論壇に於て獨立不羈の地歩を占め、何等の權威に屈せず、何等の階級に媚せず、何等の黨派に與せず、常に何等の制裁と拘束とを許さざる犀利なる筆舌を以て時事問題に對して縱議横論せらるゝことに就きても世既に定評あり。

實業之日本社は此等有用の文字が徒らに古新聞紙と共に忘却せられんとせしを憂ひてか、今回之を纂集編整して之に永久的衣裳を與ふるると同時に新たに之に對する世人の注意を喚起せんとせり。『經濟財政横議』即ち是れ也。載する所は前記財政問題の論評以外に物價論あり、金融論あり、勞働問題あり、條約改正問題あり。されば、之を小にしては本書は過去二年間に於け

る財政史の側面觀察と名くべく、之を大にしては同じく過去二年間に於ける經濟史要と稱すべきか。目下の問題たる制度整理の原因を知らんと欲する者、過去二年間に於ける經濟史の梗概を知らんと欲する者、時事問題に對する著者の抱負と氣焰と寸鐵とを知らんと欲する者は本書の存在を看過すべからず。

ブロック教授原著
三上正毅氏 譯述 財政學

大正二年三月東京崇文館發行
菊列八百三十頁正價金參圓

本書は原名を Selected Readings in Public Finance (財政學名論集)と云ひ、ハーバード大學教授ブロック氏の編纂に係るものなり。本書編纂の目的は財政學に關する歐米諸大家の名論卓説を收集して財政學の研究者をして單に一二の教科書又は參考書に頼らずして、直接に大家の筆に成りたる有名なる財政論を熟讀せしめて、

以て斯學を研鑽すると同時に斯學の發達に對して貢獻する所尠からざる學者及び其著述に關する一般的概念を與ふるに在りとす。されば、本書に載するものはアダム・スミス、リカード、李嘉圖、ミル、ルロア、ボーリユ、バークナー、セリグマン、バスターブル、ハドレイ及び其他數十の大家の學説なるが、之をば普通の財政學教科書の要目に準じて分類し、其順序に従ひて排整せるを以て、首尾一貫したる著述と殆んど異なる所なしと謂つべし。

本書の譯者三上正毅氏は經濟學專攻の爲め多年米國に留學し、歸朝後幾多の著書并に譯書を發表せられたるが就中アダム・スミスの富國論マルサスの人口論、并にデー教授著世界商業史を譯述して大に名聲を博せられたり。斯の如く譯述に多年の經驗を有せらるゝ人の手に成れることなれば、本書の譯述は自然正確忠實、行文又平易流暢にして普通の譯文と其撰を異にす

譯書は原著の譯出以外に附録として、故乗竹幸太氏の遺稿『肅堂遺稿財政論』中の一項日本租稅の沿革、小林丑三郎氏著『財政學提要』より日本現在の稅制論、松崎藏之助氏著『財政學』中の手數料論、堀江歸一氏著『財政學』より日本の公債沿革に關する一項、并に阪谷芳郎氏(『日本經濟論』)及び松崎藏之助氏の豫算論を轉載せるを以て、内外の諸制度を比較研究するの便を與ふるものなりと謂つべし。財政學の研究者殊に直接諸大家の名論を聞かんと欲する者には本書は有数の參考書なり。

佐野取引所投機取引論 卷上
善作著

大正二年五月明治大學出版部出版
菊列五百十八頁正價金貳圓七拾錢

本書は多年其心血を注ぎて我國に於ける取引所の發達を攻究せられたる佐野博士の近業にして且つ其の『マグナム・オプス』なり。全篇を緒

論、歴史及び現情の三部に分ち、緒論に於て投機取引の意義を説明して投機と賭博との異同を示し、投機の目的物が具備す可き三個の要件を挙げ、次に投機市場投機取引の效用及び投機業の發展を論ず。第二、歴史の部に於ては徳川幕府時代の米穀取引所の發達と盛衰を論じ、且維新以後に於ける米穀并に他の商品及株式取引所の發展を説くこと詳なり。第二、現情の部に於て取引所の構成、投機賣買の慣用手段を論述し、最後に取引所の營業に關する有益なる統計を掲ぐ。

取引所繼續問題の喧しき今日吾人は取引所論の大家の筆に成る此好參考書を得たるを祝し、且つ著者の勞を多とせざるべからず。吾人は取引所政策論を載する本書の下巻が一日も早く上梓せられんことを渴望して已まざるなり。

飯島 社會問題の根本觀念

大正二年五月寶文館發行
菊判三百七十頁定價金壹圓貳拾錢

既に過ぎ去りたる十九世紀は人類の經濟的生活の大發展時代たと同時に科學の全盛時代たるの觀ありき。然るに其末葉に至りて佛國の哲學者ベルグソンは一新思想を鼓吹せるに大に世人の歡迎する所と爲れり。世にベルグソンの哲學として知らるゝもの即ち是れ也。氏の哲學は要するに宿命論を根柢より否認するものにして科學の權威に對する一の反動として起れる思想に外ならず。而して宿命論は嚴密なる科學的見解を前提とせるものにして從て科學的立脚地よりしては如何なる詭辯を弄するも之を否定すること能はざると同時に、ベルグソン主義は科學上等等の價値を有せざるものなりと云ひ得べし。然かも世人が此主義を目する猶ほ早天に雲霓を望むが如きの觀あるは何故なるか。蓋し精緻嚴正なる科學的推論は幼時より推理的思索の經驗を有せざる者をして漸やく倦怠を感せしむるに至れるを以てなるべし。

而して今や此新思想は歐米の思想界を風靡し終に我國を侵し、既に多くの歸依者を生ずるに至り、多少洋學を銜ふ者口を開けばベルグソンを語らざる者なきの有様にして、曰くベルグソンの哲學と教育、曰くベルグソンの哲學と何々など、ベルグソンを基礎として種々の社會問題を論ずることは一世の流行たらんとせるが如し。吾人が此處に紹介する飯島氏の『社會問題の根本觀念』は即ち此流行の産物の一なりとす。本書は神戸高等商業學校教授津村秀松氏の編纂に係る國民經濟叢書の一にして、其第一冊は大西楮之助氏著『商國主義論』なるが本書は其第二冊なり。著者は先づ筆を社會問題の根本原因に起し社會階級、社會問題の發展を論じ轉じて此社會問題の解決に關する學說、即ち個人主義、社會主義及び社會改良主義をばベルグソン式哲學の立脚地より評論して社會改良主義を以て最善の策なりとの結論を與へたり。行文流暢玲瓏、

加ふるに活氣あり。

何事もベルグソン化するは一世の流行たらんとする傾向あるは既に述べたるが如くなるも、我國に於ける社會政策のベルグソン化は吾人の知る所に據れば本書を以て最初の試みと爲す。吾人は著者の創見と大膽とに敬服せざるを得ず。而も是れ本書の長所たると同時に短所なるぞ是非なけれ。著者は深くベルグソンの哲學を討究するとなくして此哲學を根據として、立論せるの結果往々牽強附會の説に陥るの虞あり。殊に社會改良主義を以てベルグソン主義と一致せるもの也と論せるの一項を以て然りとす。ベルグソンは自然の科學的研究を是認するも人生の科學的研究を否定せる也。而も社會改良主義は人生の科學的研究に其基礎を置くものなりとす。然りと雖も斯る批評は或は望衡的なるべし吾人は社會問題に興味を有する讀者に對して本書は一讀の値あるものとして推舉するを辭せず。